

一生勉強、一生青春  
—広い視野を持つ人材の育成を目指して—

株式会社 開倫塾  
取締役社長 林 明夫  
(公益社団法人経済同友会幹事)

Q 1 : 本日の講義の目的は何ですか。

A : 幅広い視野を持つ人材とは何かを考え、今後の、自己啓発、児童・生徒の教育の参考にして頂くため。

Q 2 : 自己紹介をお願いします。

A : 自己紹介を兼ねて私の好きなことばをいくつか紹介します。

(1) 「小学生も新聞を毎日読もう」

\* 足利市立山辺小学校 3・4 年担任 岡典子先生

(2) 「ブルドッグ魂」(食いついたら離すな)

\* 足利市立山辺中学校 2・3 年クラス担任 岡田忠治先生

(3) 「練習で泣いて、試合で笑え」

\* 足利市立山辺中学校 柔道部部长 椎名弘先生

(4) 「一所懸命」(一つの所で命を懸けるくらい熱心にものごとに取り組もう)

\* 栃木県立足利高校マラソン大会 合い言葉

(5) 「法学徒(法律を勉強した人)はいつも最悪の場合を予想して行動しよう」

\* 慶應義塾大学法学部部長 峯村光郎先生(法哲学、労働法)

(6) 「注意一秒、けが一生」

\* 慶應義塾大学法学部教授 宮沢浩一先生(刑法、刑事政策、犯罪学、被害者学)

(7) ① 「よいことをして忘れること」 ② 「会った人は、皆、友達」

③ 「本当の月を見たことがあるのか、本当の自分を見たことがあるのか」

\* 京都、一燈園 石川洋先生

(8) ① 「初心忘るべからず」 ② 「離見の見(りけんのけん)」(舞っている自分を離れたところから見る)\* 世阿弥

(9) 「持続する志(こころざし)」\* 作家 大江健三郎先生

(10) 「目には遠いが心は近い」\* インドのことわざ

(11) 「教育ある人とは一生勉強し続ける人」\* 経営学の大家 ドラッカー先生

(12) 「一生勉強、一生青春」

\* 足利市出身の書家 相田みつを先生

Q 3 : 「教育の成果を決定する要因」は何だと考えますか。

A : (1) 「本人の自覚」と「先生の力量」と考えます。

(2) 「本人の自覚を促すことは先生の力量に含まれる」と考えます。

(3) 「本人の自覚」を促すためには、先生自身が幅広い視野を持った上で失敗を恐れず、「本人の自覚を促す具体的な取り組みを行うこと」が求められます。

(4) 「自分自身の立場(小学生や中学生、高校生であること)」や「自分自身のよさ、克服すべき課題」、「何のために学ぶのか」、「何のために上級学校に進学するのか」、「進学した学校でどのようなことがしたいのか」、「進学した学校を卒業したあとはどうしたいのか」、「社会に出てどのような仕事に就きたいのか」、「どのような社会的活動がしたいのか」、「どのような一生を過ごしたいのか」などをあまり無理のない形で少しずつでも考える。そのきっかけを、一人ひとりの児童・生徒の立場に立ってお与え頂きたく希望いたします。

(5) 「本人の自覚を促す」取り組みを先生方が情報交換し、共有化。

Q 4 : これからの社会で求められる能力とは何ですか。「鍵になるような基本的能力(キー・コンピテンシーズ)」とは何だと考えますか。

A : 「これからの社会」は「知識社会」「グローバル化社会」「課題山積社会」と考えます。

(1) ① 「知識社会」は「知識が基盤となった社会」です。英語で knowledge Based Society (ナレッジ・ベースト・ソサイアティ) というようです。

② 「知識社会で求められる能力」とは「知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力」です。

③ 特に、コンピュータの知識は欠かせません。エクセルやワードは継続して学び続ける。タッチタイピングはスキルとして身に付けたほうが作業時間が大幅に短縮され、また、身体が疲れないと考えます。高3までの数学、特に統計・確率はエクセルの前提です。

(2) ① 「グローバル化社会」とは「人、もの、お金が国境を越えて行き来する社会」と考えます。

② 「グローバル化社会」で求められる基本的能力は「多様な集団で交流する能力」です。

③ 英語は世界の共通語ですから、身に付けたほうがよいと考えます。

\* 高校を卒業するまでに英語以外の言語にも親しみ、身に付けたほうがよいと考えます。

英語以外の言語の NHK のラジオ・TV 講座は超お勧めです。

\* 先生として新しい言語に挑戦すると、「学習者」としてのもの見方が再発見できます。

④ 日本史、世界史だけでなく、政治経済、地理、更に倫理社会はグローバル化の必須科目です。

⑤ 国語科の古文や漢文は日本人としてのアイデンティティを考えると最重要科目といえます。文化・芸術を理解するために美術・音楽は欠かせません。

⑥ 国だけでなく歴史、言語、宗教、文化、価値観の異なる集団でトラブルや紛争を起こすことなく、コミュニケーションが図れることがグローバル化社会では求められます。

⑦ 「関係は本質に先立つか」。「本質」的には異なる人や集団と「関係」を築くためにはどうしたらよいか。「エポケー」(思考停止)をして、まずは相手の存在を認めるという手法が「異文化教育方法論」(上智大学の渡辺文雄先生)にあります。

(3)「課題山積社会」で求められる基本的能力は「**自律的に行動する能力**」です。

- ①「デフレ」「大消費不況」「円高」「製造業の海外移転」「国と地方の膨大な債務」「超少子化」「超高齢化」「3.11 大地震による津波・原発停止・放射能被害」「エネルギー危機」「CO<sub>2</sub>削減」「新興諸国の台頭」「米国や欧州の経済危機」「世界は人口爆発」など、数え切れないほどの「**課題が山積**」しているのが現代社会。
- ②企業や NPO、公共部門、自治体、国家はじめあらゆる「組織」の「永続」「持続的発展」を可能にするのは一人ひとりが「**自律的に活動する能力**」を身に付けていることです。
- ③高3までの生物、地学、物理、化学、そして数学、英語、コンピュータの知識なくして現代社会のかかえる課題解決は極めて困難です。医療・介護分野でも同様です。
- ④各々の組織の目的「社会的使命(ミッション)」をよく理解し、その目的達成のために乗り越えなければならない「マイル・ストーン(一里塚)」を1つ1つクリアしていくことが求められます。
- ⑤<御参考>「**経営とは営みを経て目的(ゴール)やゴールに至る一里塚(マイルストーン)を1つずつクリアしていく営み**」であると、私は「経営」を「定義」しています。

Q5 : 「知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力」、「多様な集団で交流する能力」、「自律的に行動する能力」の3つの「**鍵となるような基本的能力(キー・コンピテンシーズ)**」、「**学力**」を身に付けると、どのような効果があると考えますか。

A : (1)個人としては「**多様な選択肢のある人生**」を歩むチャンスが得られると考えます。

- ①「多様な選択肢のある人生」を「**幸福な人生**」「**人生の成功**」と考えれば、「**幸福な人生**」「**人生の成功**」に結びつくと考えます。

(2)社会としては「**正常に機能する社会の形成**」、「**持続可能な社会の実現**」に貢献すると考えます。

(3)ところで、「**安全保障**」には「**国家の安全保障**」と「**人間の安全保障(Human Security、ヒューマン・セキュリティ)**」があり、国際連合アマルティア・セン氏、緒方貞子氏が共同研究し、日本の外交政策の柱の一つになっています。その「**人間の安全保障**」の内容は「**保護(protect プロテクト)**」と「**能力強化(empowerment エンパワーメント)**」の2つ。強化すべき能力が、3つの「**鍵となるような基本的能力**」と私は考えます。

(4)人間が極限状況に置かれた時にまず大切なのは、自身の生命を守ること(「**保護(protect)**」)、生き続けること。その状況が回復した段階で求められるのは、人間としての尊厳を回復するために「**能力強化(empowerment)**」することと考えます。3.11 東日本大震災の復興や支援にも、「**人間の安全保障(Human Security)**」の考え方をを用いるべきと考えます。

Q6 : 3つの「**鍵となるような基本的能力(キー・コンピテンシーズ)**」、「**学力**」を身に付ける前提は何だとお考えですか。

A : (1)「**学習の仕方を学習**」する能力を身に付けていること。

- ①「**学習**」を2つに分け、「**学ぶ**」、つまり、これはこういうことかとものごとの本質を「**理解**」する方法と同時に、「**習う**」、つまり、一度理解したことを繰り返し反復練習することで「**定着**」、「**身に付ける**」能力を身に付けていること。
- ② study(スタディ)を「**学ぶ**」と考えれば、learn(ラーン)は「**習う方法**」を身に付けていること。
- ③英語でこれを「**learning to learn(学習の学習)**」の仕方を身に付けているというようです。
- ④ちなみに、一度「これはこういうことだ」と「**理解**」したことを「**定着**」させる方法としては、「**音読**」や「**書き取り**」「**計算**」などの「**練習**」を繰り返し行うことが有用と私は考えます。

## 御参考

### 論語 学而第一

子曰しわくい、学まびて時とに之これを習ならう、亦また説よろこばしからずや。

朋とも有あり遠方えんぽうより来きたる、亦また楽たのしからずや。人ひと知しらずして搢いきどおらず、亦また君子くんしならずや。

(1-1)

孔子が言った。学問をして、その学んだところを、復習できる機会を逃さずに、何回も何回も、くり返して復習すると、学んだところのものは、自分の真の知識として完全に消化され、体得される。これはまた、なんと喜ばしいことではないか。このようにして、知識が豊かになれば、道と同じくする友達が、遠い所からまでもやって来て、学問について話しあうようになる。これはまた、なんと楽しいことではないか。しかし、いくら勉強しても、この自分を認めてくれない人が世間にはいるもの。そうした人がいたとしても、怨まない。それでこそ、学徳ともにすぐれた君子ではないか。

須永美知夫著「論語抄」史跡足利学校 1993年刊より引用

(2)「読書による思慮深さ」を身に付けていること。

- ①教科書で紹介している本や学校や公立図書館にある本をゆっくり、丁寧に5～6回読むこと。(図書室や図書館の使用方法を折に触れて指導。大学図書館の活用も指導)
- ②気に入った文章は「書き抜き読書ノート」に書き写し、一生を通じて繰り返し読み直す。「人格の基礎」が形成されます。

(3)「新聞を読み自分で考える力、批判的思考(Critical thinking クリティカル・シンキング)能力を身に付ける」こと。新聞は「社会の番犬(watch dog)」、解決すべき課題を指摘することが社会的使命と私は考えます。

- ①興味のある記事は「スクラップブック」に
- ②NIE(Newspaper In Education 新聞を教育へ)。昨日までの新聞を家族等からプレゼントしてもらい活用すれば、NIE活動は予算をかけずに可能です。10月の新聞週間や11月のNIE週間などに地元に住する新聞記者やマスコミ関係者、新聞配達店の人に「新聞ができるまで」、「新聞が配達されるまで」などのテーマでお話をお願いすると、新聞に親しむよいきっかけとなります。

(4)元NHK 週間こどもニュースキャスターで東京工業大学教授の池上彰先生の一連の著作は先生として読むと参考になります。立田慶裕監訳「キー・コンピテンシーズ—国際標準の学力をめざして—」明石書店2006年発行は必読。

Q7：経営を考える上で大切なことは何ですか。

A：(1)今、このような現実があるから、このような対応をしてとりあえずその場をしのごうという「**事実前提の経営**」をできるだけ排し、現実を厳しくとも企業や組織として大切にす価値・基本理念の実現を目的に具体的に行動する「**価値前提の経営**」を目指すことが大切だと考えます。

(2)経営をする上で大切な価値、「**経営の基本理念**」は、「顧客本位」「独自能力」「社員重視」「**社会との調和**」の4つです。

Q 8 : 「経営の基本理念」の第1の「顧客本位」とは何ですか。

- A : (1) 「顧客価値の創造」、つまり、お客様にとって価値のあることを生み出し、提供することです。
- (2) そこで第一に考えなければならないことは「顧客の定義」です。学校にとっての顧客とは誰か。私は、「児童・生徒・学生」、「保護者」、更には「地域社会 (community コミュニティ)」と考えます。
- (3) 顧客にとって価値のある提供すべきこととは何か。顧客にとって困っていることの解決、学校であれば「顧客の教育分野での問題解決」と考えます。
- (4) ただし、学校といっても限られた人員、時間、施設でありますので、何から何まで行うことはできませんので、「選択と集中」を行い、行うべきことは確実に行うことに徹しなければなりません。また、これはやるが、これは行わないと「やらないこと」を短い表現で明確にすること、トレード・オフ (trade off) も考えておくべきです。
- (5) これらを短い表現で明確にした上で、顧客にその理由や決定に至る経緯をわかりやすい表現で丁寧、親切に、粘り強く、繰り返し説明することが求められます。これを「説明責任 (accountability アカウンタビリティ)」といいます。

Q 9 : 「独自能力」とは何ですか。

- A : (1) 自分の頭でよく考え、独自の見方・考え方で価値の実現を図ることです。
- (2) ただし、初めから自分の頭で考えるのではなく、参考にすべきことは参考にし、特に「ベストプラクティスのベンチマーキング」(最良の実践例を、素直な心で、チームを組み、組織を挙げて定期的に学ぶしくみをつくること)が大切です。
- (3) 「ベストプラクティスのベンチマーキング」には、「社内」、「同業他社」、「異業種」、3つのベストプラクティスのベンチマーキングがあります。これらを定期的に行うしくみをつくり、P (Plan 計画) → D (Do 実行) → C (Check 検証) → A (Action 修正)、PDCA のサイクルをぐるぐる回しながら、独自の見方・考え方で自己革新をはかるのが「独自能力によるイノベーション」です。
- (4) ここでの中心人物が「自律的に行動する能力」を備えた人です。

Q10 : 社員重視とは何ですか。

- A : (1) 社員の能力を強化すること。能力強化が果せた社員にのみ権限を委譲することです。
- (2) どのような組織でも仕事の上では様々な業務・役職があります。業務・役職に就いてからその業務・役職にふさわしい能力を求めるのではなく、その業務・役職を遂行するために「能力強化」をした上で、大幅に「権限を委譲」することが求められます。
- \* 英語の empowerment は「能力強化」と「権限委譲」の2つの意味があり、興味深いです。
- (3) 企業では、「雇われる能力 (employability エンプロイアビリティ)」ということばがよく使われます。
- ・ トップとしてのエンプロイアビリティ
  - ・ ミドルとしてのエンプロイアビリティ
  - ・ 一般社員としてのエンプロイアビリティ
- すべての内容が異なり、それらを身に付けるために各々に応じた能力強化が求められます。

(4)人間には自分の潜在能力を自らの力で見出し、自分自身の手で自らのキャリア形成を行う権利(キャリア権)があると私は考えます。企業や国・自治体・地域社会はこの「キャリア権」を推進すべきと私は考えます。

\*キャリア権推進機構が4月に発足しました。

(5)「出入り自由」、「85歳過ぎまで働ける」職場づくりが今後は望まれます。

**Q11：社会との調和とは何ですか。**

A：(1)法令遵守

(2)セクシズム(性による差別)、エイジズム(年齢による差別)、レイシズム(出身による差別)を行わないこと

(3)社会貢献活動の推進、NPO・NGOの支援

(4)CSR(Corporate Social Responsibility)、企業としての社会的責任を果たすこと

(5)社会的課題解決を目指す社会的企業(Social Enterprise)を目指すこと  
社会起業家支援も

**Q12：学校での教育は役に立つとお考えですか。社会に出て役に立ちますか。**

A：(1)学校での教育はすべて役に立つと私は確信します。

(2)教科教育は役に立ちます。教科教育以外の教育も役に立ちます。すべて役に立ちます。

(3)今の学年の教科教育の内容は次の学年で役に立ちます。小学校の教育内容は中学校で、中学校の教育内容は高校で、高校の教育内容は大学・短期大学・専門学校・大学院、企業やNPO、公共部門、家庭や社会活動で役に立ちます。死ぬまで役に立ちます。

(4)教科だけでなく、入学式、始業式、終業式、卒業式、運動会、文化祭、修学旅行、遠足、体験授業、各種鑑賞会などの学校行事、学級会活動、生徒会活動、各種当番制度、部活動などすべての教科外の教育活動も一生役に立ちます。

(5)児童・生徒・学生にはこのことを明確に教えてあげてください。そうしないと、意味のないこと、将来役に立たないことをするために学校に行っていると誤解する児童・生徒・学生になってしまうからです。意味のないことを無理やりさせられることほど苦痛なことはありません。

(6)保護者や地域社会の人々にも学校で行っている教育活動の意味を1つ1つ丁寧に、わかりやすく、また、繰り返し説明し、「理解」、「協力」、「参加」を促してください。

(7)自らの希望校に合格するための受験前の勉強も、「今までしてきた勉強を自分自身の力で学校の教科書や教材、授業中のノートを最大活用してすべてやり直し、できればスミからスミまで正確に理解した上で定着させ、過去に出た問題も数年分自分の力で解き、よく勉強し、希望校に合格し、合格したあとにしっかりと目標に向かって勉強するためにするのだよ」などと受験勉強のあるべき姿、本来の意味を教えてあげてください。希望校合格は目的ではなく、合格するための手段にすぎないこと、目的と手段を混同しないことも明確に教えてあげてください。

(8)故に、学校の教科書、資料、授業中のノートは一生役に立つものであるから卒業後もできるだけ一定の場所に保存し、折に触れて読み直すこと。できれば学校での恩師の授業を思い返しながらその続きを一生かけて勉強するように御指導ください。

Q13：教育の質とは何だとお考えですか。

A：「カリキュラムの質」「先生の質」「マネジメントの質」だと考えます。

(1)最も大切なのは、「カリキュラム」

カリキュラムにおける小中高の連携が望まれます。

(2)①・小学校の先生は幼稚園と小学校のカリキュラムと指導内容

・中学校の先生は小学校と高校のカリキュラムと指導内容

・高校の先生は中学校と大学のカリキュラムと指導内容

\*各々を熟知することが「先生としての質」向上のために求められます。

②大学入試の内容や方法が大幅に変更されようとしています。

・大学入試の英語が TOEFL で代用されるようになった場合、高校英語の内容や指導方法は今のままでよいのか。

・PCで試験が行われるためタッチタイピングは不可欠。

・高校や大学のレベルの英文が出されるため、各教科の英語での指導も求められます。

・たとえ日本人の先生であろうと、高校だけでなく、中学校、小学校にも英語は英語で教えるという本格的指導が求められるようになりそうです。

・英語の先生は英字新聞を自宅購読し、スラスラ読めるまでにすることや、英英辞典を用い英語の語句の意味を英語で言えるようにすること、文法事項を簡単な英語で説明できるようにすることなどの準備をした上で、毎年1回は TOEFL や TOEIC などを先生自ら受験しスキルアップを怠らないことが求められるようになりそうです。

④大学の大量化に伴い大学の制度が大幅に変更され、ますます専門化されつつあります。欧州のように一般教養科目は哲学も含め高校段階で修了となりそうです。日本ではどう対応したらよいのか、是非お考えください。日本の高校では受験勉強などしているヒマ、時間はないというのが私の考えです。

(3)「マネジメント」効率の大幅な向上に役立つのが「5S」とエクセル・ワードの能力向上と「タッチタイピング」。

①「5S」は学校にも有用。

「整理」…「不要なものは処分」

「清掃」…「きれいに清掃」

「整頓」…「ものがすぐに取り出せるようにする」

「清潔」…以上を維持・継続

「躰」…自分の意志で行う

② 2012年11月5日・6日に「第1回世界5Sサミット2012」を足利市で開催。製造業だけでなく、職場代表のインストラクターを育成し、サービス業や福祉施設、足利市役所や学校でも5Sを展開中です。足利商工会議所に「足利5S学校」事務局(0284-21-1354)があります。是非、御視察ください。栃木県立足利清風高校や足利工業高校では5Sを学校教育に取り入れています。

Q14：10年目の先生として取り組むべきことは何だとお考えですか。

A：(1)世界や日本、地域社会の激しい動きを新聞などを通してしっかりと認識すること。紙ベースの新聞を自宅でなめるように毎日読む。週に1回以上、図書館で複数の新聞を読む。英語の先生は英字新聞を家で購読。

- (2)先生として読むべき本は腰を落ちつけて読む。教科書や指導書に載っている本はコツコツと時間をかけ、メモを取りながら一冊残らず読む。
- (3)放送大学を活用して、教育学の最新の標準的な理論を学び続ける。
- (4)毎年1回は指導要領に基づき自分なりの年間授業計画を立て、それに基づいて毎日の授業毎に「レッスンプラン Lesson Plan」を書き、授業はレッスンプランに沿って行う。授業中に気づいたことや児童・生徒の発言、質問はレッスンプランにメモ。
- (5)授業後は毎回授業を振り返りレッスンプランに記入。  
\*こうして1年かけてできたレッスンプランは「先生としての成長の記録」として大切に保存。折に触れて読み返し、授業のスキル向上に役立てる。
- (6)毎回の授業のレッスンプランの最初に「本日の目標」を全教科「Can Do(キャン・ドウ)」、つまり、本日の授業が終わったらどのようなことが身に付くかの形で書き、児童・生徒に示す。  
\* NHK ラジオ・TV の語学番組を参考に。一番参考になるのは NHK ラジオ、スペイン語講座4～9月号テキスト
- (7)ただ大きな声を出すだけでなくボイストレーニングも有用。アナウンサーや演劇をやっている人から指導を受けること。
- (8)児童・生徒がこれから進学する上級学校を定期的に視察し、どのような内容を学ぶのかを知ること。大学や短期大学、専門学校がどのようになっているのかを知ること。企業や医療・介護・福祉部門の実態を知ること。先生方こそ工場見学や職場見学を積極的に行き、今、学校で教えていることが社会に出てどのように役立っているのかを知り、児童・生徒に学校で学ぶ意味を自分のことばで伝えること。子どもたちが最も知りたいのは、今、学んでいることが将来自分の人生にとりどのように役立つかということだからです。
- (9)世界の教育の動き、日本の教育の動きからも目が離せません。
- ①インドの大都市では月謝 300 ルピー、日本円で 500 円ぐらいで全教科英語で指導する低価格私立学校(Low Cost Private School)が広まり、現地語で教育を行う公立学校をしのぐ地域も出現。グラミン銀行と同様の広まりを見せています。貧困からの脱出を目指す保護者の期待に応えようと、小学生から高校生までの子どもたちは必死で全教科英語による教育を受けています。
- ②一方、北欧のフィンランドでは一人ひとりの学力向上とともにすべての職業に資格制度を設け高校から大学院まで一貫した本格的な教育制度を目指しています。学力不足の生徒のための義務教育 10 年目、先生として採用されるのは先生としての適性と学力のある人のみ入学させる 3 年制の教育学部と 2 年制の大学院修了者のみ。
- ③日本では高校に続き中学校でも英語の授業を英語でという動き(足利市の大半の公立中学校では英語による英語の授業を実施中)。小学校でも 5・6 年生に正規の英語教育導入の動き。全教科英語での授業の動きも。

**Q15：日本の産業界に今一番欠けている人材とは何ですか。**

**A：**(1)打って出ることのできる人材です。

(2)世界中がこれほどグローバル化し、日本のものやサービスは素晴らしく世界中から日本企業の進出が期待され、世界の人々も待ち望んでいるのに、打って出る人材があまりにも少なく大きなビジネスチャンスをつかめないでいます。優秀な外国人を用いる人材も極端に不足

しています。「多様な集団で交流する能力を備えた人材」つまり「グローバル人材」が、先進諸国では日本が最も不足しています。

(3)安倍政権はアベノミクスの3本目の矢である成長戦略を担う人材の1つをグローバル人材と称してその育成を目指しますが、少しずつでも着実に人材育成ができないと、国家破綻、地方自治体破綻に陥りますので、グローバル人材育成は日本国の運命を懸けた国家戦略と言えます。ただし、政治の混乱と停滞のために教育分野でもあまりにも取り組みが遅かった、20年遅すぎたと言えます。

#### Q16：最後に一言どうぞ。

A：(1)小学校、中学校、高校時代の同級生、同窓生は一生の友だち、先生は一生の恩師です。

(2)日本の社会が、世界で人口当たりの凶悪犯罪発生率が低いこと、大災害時に略奪や不正が行われることが少ないこと、不登校が極めて少ないことなどは日本の学校教育の成果の1つとして高く評価できます。日本の教育は成功であったと私は考えます。どうか自信、信念を持って教育をおすすめください。

(3)10年目以降は、是非、学校全体の経営を考える校長、副校長(教頭)、主任などの管理職も目指して頂きたい。

①そのときには、「経営学」の勉強が極めて役に立ちます。経営学はお一人でも学べますが、放送大学や各大学の開放講座(イクステンションやコミュニティ・カレッジ)でも多くの科目を学ぶことができます。特に、「ドラッカー」、「コトラー」、「ポーター」の3人の先生は経営学の大家で、本もたくさん出ています。易しい入門書から少しずつでもお読みください。

②経営を学ぶ上で孔子の教えをまとめた「論語」は極めて有用です。老子や孫子も有用です。深谷市出身の渋沢栄一翁の「論語とそろばん」は企業経営にも倫理が必要と説き、多くの賛同を得ました。二宮尊徳翁の「二宮翁夜話」も示唆に富みます。

③中国、唐の繁栄を築いた太宗の言動をまとめた「貞観政要(じょうがんせいよう)」(明治書院刊、新釈漢文大系、上、下)は、辞表を胸にした部下の直言(耳に痛いこと)を上司が感謝の心を持ってどう素直に聞くかの名著です。

④卓越した業績を目指す日本経営品質賞という取り組みがあり、三重県や岩手県では「学校経営品質」の取り組みがあり、さかんに行われ、参考になります。HPをご覧ください。

(4)学校の先生には、卒業後も教えた人たちの恩師としていつまでも先生でいて頂きたい。同時に、定年退職後も一生涯地域の人々にとって先生であってほしいと考えます。そのためには、現役時代から地域の先生として何がしたいかを考え、そのスキルを磨き続けて頂きたい。

(5)健康第一。心の健康と身体の健康の維持を。お体を大切に御活躍ください。

\*「自然と精神」(ベイトソン)

御清聴を感謝申し上げます。

以上

— 2013年6月2日記 —